

# 「今、何の病気が流行しているか！」

## (川崎市感染症発生動向調査事業—令和5年第6週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和5年第6週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和5年第6週（令和5年2月6日から令和5年2月12日まで）

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）突発性発しんでした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は10.21人と前週（12.62人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.68人と前週（8.86人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.16人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“梅毒の報告数が増えています！～先天梅毒に御注意を～”について取り上げました。

川崎市における梅毒の報告数は、令和5年第6週（2月6日～2月12日）までに計14件あり、昨年に引き続き、今年も報告が相次いでいます。

梅毒は、梅毒トレポネーマを原因とし、主に性的接触等により粘膜や皮膚の小さな傷から病原体が侵入して感染します。治療せずに放置すると、長期間の経過で、脳や心臓などに重大な合併症がみられることもあります。また、無治療のままでも症状が消失する時期もあり、気付かないうちに他の方へ感染を拡げてしまう恐れもあります。

妊婦が梅毒に感染すると、流産、死産となる場合や、お子さんが梅毒にかかった状態で生まれる（先天梅毒）可能性があります。いずれも、適切な時期に妊婦に対する抗菌薬治療を行うことで、胎児への感染を防ぐことができます。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

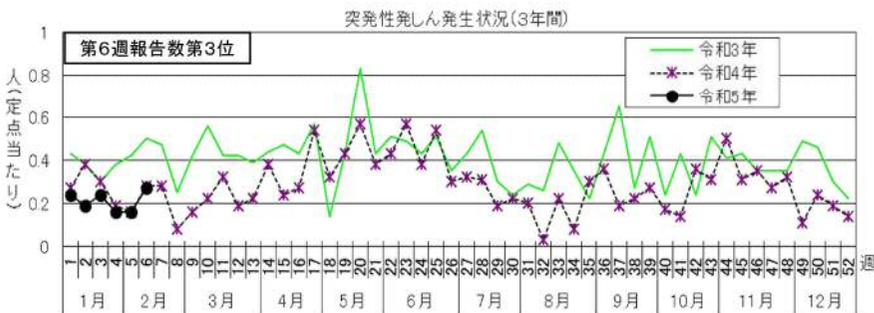
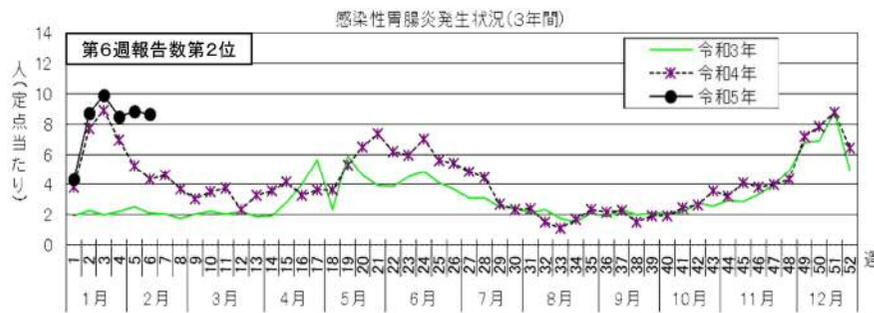
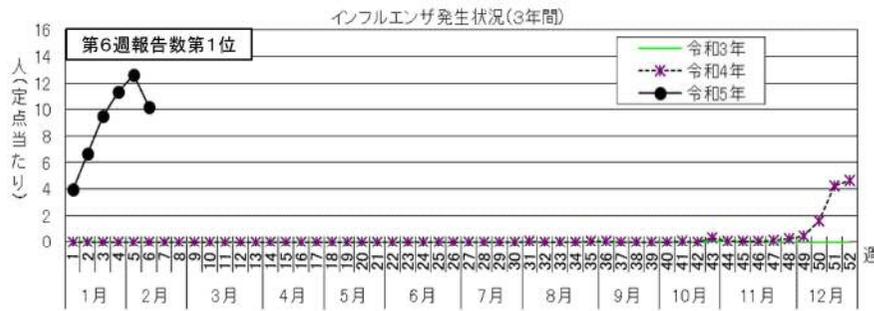
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木  
電話044（200）2446  
川崎市健康安全研究所 三崎  
電話044（276）8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年2月6日（月）～令和5年2月12日（日）〔令和5年第6週〕の感染症発生状況

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) 突発性発しんでした。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は10.21人と前週(12.62人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.68人と前週(8.86人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.27人と前週(0.16人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



## 梅毒の報告数が増えています！～先天梅毒に御注意を～

川崎市における梅毒の報告数は、令和5年第6週（2月6日～2月12日）までに計14件あり、昨年に引き続き、今年も報告が相次いでいます。

梅毒は、梅毒トレポネーマを原因とし、主に性的接触等により粘膜や皮膚の小さな傷から病原体が侵入して感染します。治療せずに放置すると、長期間の経過で、脳や心臓などに重大な合併症がみられることもあります。また、無治療のままでも症状が消失する時期もあり、気付かないうちに他の方へ感染を拡げてしまう恐れもあります。

妊婦が梅毒に感染すると、流産、死産となる場合や、お子さんが梅毒にかかった状態で生まれる（先天梅毒）可能性があります。いずれも、適切な時期に妊婦に対する抗菌薬治療を行うことで、胎児への感染を防ぐことができます。

### 先天梅毒について

#### 【症状】

- 出生時は無症状のことが多い。
- 早期先天梅毒（生後数か月以内に発症）  
皮膚症状、肝脾腫、骨軟骨炎等
  - 晚期先天梅毒（生後約2年以降に発症）  
実質性角膜炎、感音性難聴、歯牙変形等

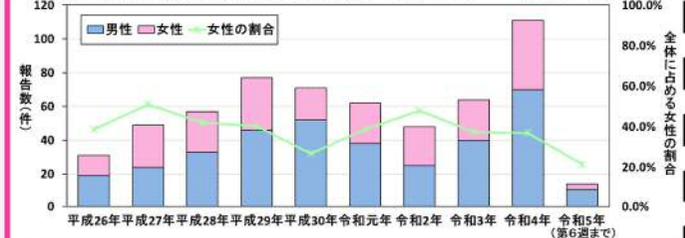
#### 【予防】

母の妊婦健診等による早期発見、早期治療

#### 【治療】

抗菌薬治療

川崎市における梅毒報告数(平成26年～令和5年)



### 梅毒治療のポイント

- 自然に症状が消失することがあるため、症状が治まっても自己判断で治療を中断しない。
- パートナーも受検し、必要に応じて治療を受ける。